

なはーとダイアログとは

アーティストと観客や参加者がさまざまなことから話し合い、交流し、学び合う場所になることを目指すための企画です。

令和4年度は、「なはーとでやってみたいこと」を考えるワークショップから、市長を招いたシンポジウム、県内で活躍する若手アーティストのトークイベント、子ども向けの写真ワークショップを開催しました。

なはーとは、これからも文化芸術の創造と鑑賞、継承と発展の場であるのみならず、元・久茂地小学校という立地の歴史をふまえて、劇場と地域をつなぐイベントシリーズ、「なはーとダイアログ」を開催していきます。

あなたのご参加をお待ちしています！

「なはーとダイアログ」の最新情報は
なはーとのウェブサイト・SNSでチェック！

ウェブサイト

<https://www.nahart.jp/>

Instagram

<https://www.instagram.com/nahart2021/>

Facebook

<https://www.facebook.com/theatrenahart>

那覇文化芸術劇場 なはーと

〒900-0015

沖縄県那覇市久茂地3-26-27

TEL：098-861-7810 FAX：098-861-7870

開館時間：午前9時～午後10時

休館日：毎月第1・3月曜日（祝日又は慰霊
の日は開館、直後の祝日でない日休館）

年末年始（12月29日～1月3日）

令和4年度なはーと文化芸術事業

なはーと ダイアログ

開催レポート



主催：那覇市
企画制作：那覇文化芸術劇場なはーと
株式会社さびら



第1回 「劇場」ってなにができるの？

2022年11月26日開催

第1回は「劇場ってどんな場所？」
「なは一とで、何ができる？」を参加者全員で考える回。ゲストによるアートを通じた事例紹介をもとに、今後なは一とが担うであろう役割や劇場の可能性を探りつつ、ワークショップのアイデアを練りました。



平和教育ファシリテーター
狩俣日姫

ペインター
HAYATO MACHIDA

今回出たアイデアは、最終回となる第4回に、子どもたち向けのワークショップとして実現することを目指し、アーティストを中心とした企画チームに引き継がれました。

最初にワークショップ自体を考える話が聞いてイメージが広がった。物事（社会）を俯瞰できるワークショップがもっと出来てほしい、作りたい！

那覇市・20代



第3回 アーティストは何をかんがえているか

2023年1月22日開催

第3回では、これまでの「市民と行政の対話」というテーマから少し目線を変え、20~30代の県内で活躍するアーティスト総勢11名をゲストに招き、表現者自身の「声」に耳を傾けるシンポジウムを開催しました。



現代アート、古典芸能やポップミュージシャンなど、多彩な参加者の中でジャンルを横断した繋がりが生まれ、共に那覇市の文化の盛り上がりを作っていきたいという希望を込めた回となりました。

登壇者
安里琉太（俳人）／新垣七奈（演出家）／上原沙也加（写真家）
兼島拓也（劇作家）木村あさぎ（映画監督）／丹治りえ（彫刻家）
照屋恵悟（ピアニスト）／TOSH（ミュージシャン）
仲嶺良盛（琉球古典音楽）西永怜央菜（アーティスト）
Ms. Little Chico（イラストレーター）



今回は文芸・芸術に関わる人達でしたが、なは一とではお笑いライブも行っているので次回は芸人を呼んでもいいかも。

糸満市・20代

第2回 2022年12月17日開催

「那覇の文化芸術」これからどうする？

第2回はパネリストをお招きし、シンポジウム形式で行いました。文化芸術に求められる役割が時代とともに変化する中で、私たちは「那覇の文化芸術」をこれからどのように育て、表現し、社会に位置づけていくことができるのか、を主題に置いてパネリストと参加者の質疑応答による議論を行いました。

会場には那覇市内のアーティストも参加者として質問するなど、有識者の意見も踏まえつつ、市民と意見交換をする貴重な開かれた機会ともなりました。

市民の中にアーティストもいることがわかる良い場だった。複雑な立場、階層が同時にあり、意見交換できる場がアートの場の中にあることが大事だと思った。

那覇市・40代



那覇市長
知念 覚



東京藝大 准教授
山城 知佳子

県立芸大教授
小林 純子

第4回 あつまれ！小さな写真家たち！ カメラを「目」にして街を見てみよう！

2023年2月23日開催

最終回となる第4回は、初回のワークショップで参加者から出たアイデアをヒントに、小中学生を対象にした写真を使ったワークショップを行いました。

スマホを使って誰でも写真を撮れるようになった今だからこそ、「カメラ」で写真を撮ることの面白さを味わい、「カメラと体の関係」について考えてみるワークショップにもなりました。

子どもたちのクリエイティブな作品に、参加した全員の想像力が掻き立てられた回でした。

子どもたちがカメラで遊べるかなという軽い気持ちで参加しましたが、自分以外の新しい視点を学んだり、すごく深いワークでびっくりしました。とても楽しそうに参加していて貴重な時間になったと思います。

那覇市・40代

講師 上原 沙也加（写真家）
高橋 健太郎（フォトアーティスト）

